

Ⅱ 成果の公表

1. 普及に移した、または普及の参考となる技術情報

平成27年度 第1回農業・農村の課題調整会議
平成27年8月12日(水) 奈良県橿原総合庁舎

1) 普及に移した技術課題

1	機能性成分カプシノイドを含有するトウガラシの新品種	野菜栽培
2	長繊維不織布被覆による5~6月咲き小ギクの芯止まり症状の軽減	花き栽培
3	電照処理と無加温ハウスを利用した小ギクの11月安定出荷作型の開発	花き栽培

2) 普及の参考となる技術・情報

1	‘アスカルビー’の間欠冷蔵における気化潜熱ポットの利用	野菜栽培
2	イチゴ栽培施設での交配用ハエの利用(追加情報)	野菜栽培
3	電照8月盆出荷の現地事例における花芽発達モデルと開花予測	花き栽培
4	ダリア冬切り試験品種データベース	花き栽培
5	ケイオウザクラの開花調節技術	花き栽培
6	カロリーを低減したイチジクジャムの試作	食品加工
7	発育モデル法を用いた小麦「ふくはるか」の成熟期予測	穀物栽培
8	高温登熟性に優れる水稲中生品種の特性	穀物栽培
9	温湯処理によるキク白さび病の防除	病害虫防除
10	ダリア球根産地におけるTSWVを媒介するアザミウマ類の適切な防除時期の解明	病害虫防除
11	ヤマトトウキにおける地上部生育を指標とした根部生育判断	薬草栽培
12	ヤマトトウキにおける冬期保温ベッド育苗による育苗期間の短縮	薬草栽培
13	春レタス跡の畝・マルチを再利用した早生エダマメの省力栽培	遺伝資源保存
14	ハウレンソウ栽培における寒冷紗の効率的展張・収納技術	遺伝資源保存
15	薬草堆肥施用による生育障害の原因解明と対策	環境保全
16	片平あかねと下北春まな(赤系統)におけるアントシアニンの同定	植物機能
17	資材の違いがかぶせ茶の被覆内部温度に与える影響	茶栽培

2. 農業研究開発センター成果発表会

平成28年2月19日（金）田原本青垣生涯学習センター 2階 研修室
テーマ：「最新の栽培技術と病虫害防除技術」

1) 成果の紹介（プレゼンテーション）

東井君枝	間欠冷蔵処理によるイチゴの花芽分化促進技術の安定化
竹中 勲	露地ナス栽培における土着天敵を活用した害虫防除
杉山高世	水稲「ヒノヒカリ」の品質向上技術の確立
虎太有里	サクラ類の開花調節技術
神川 諭	大和マナ‘夏なら菜’の流通時における黄化の原因と対策

2) ポスターセッション

・ポット栽培でカキの早期成園化と軽労化
・ヤマトトウキ栽培における防虫ネットを利用した害虫防除
・ハウレンソウ施設栽培における局所的生育障害の原因解明
・片平あかねと下北春まな（赤系統）のアントシアニンの特性
・飛ばないテントウムシで施設スイカのアブラムシ防除
・新品種「太天」を用いた干し柿の開発
・「ふくはるか」のそうめん加工適性の向上
・夜冷処理によるシクラメンの生育と開花の促進
・カキ大苗による老木園改植の経営的評価
・茶栽培用資材被覆・除去装置の開発
・春レタス跡の畝・マルチを再利用した早生エダマメの省力栽培
・施設園芸における加温機排気を利用する二酸化炭素施用

3) 展示・試食

展示・試食	電動一輪車、ダリア切り花、イチゴ（アスカルビー・古都華）、干し柿
-------	----------------------------------

3. 刊行物

【奈良県農業研究開発センター研究報告 第47号 2016.3】

[原著]

米田健一・浅尾浩史	ヤマトトウキにおける冬期保温ベッド育苗による短期育苗法の検討	47:1-9(2016)
辻本直樹・仲 照史・虎太有里	BA製剤散布処理によるダリア切り花の日持ち延長効果における品種間差異	47:11-17(2016)

[短報]

竹中勲・神川論・今村剛士	奈良県の露地ナス圃場におけるヒメハナカメムシ類の種構成	47:18-21(2016)
東井君枝・西本登志	繊維の長さが異なるピートモスの物理性と、イチゴ高設栽培の培地に用いるピートモスの繊維の長さが収量に及ぼす影響	47:22-28(2016)
西本登志・東井君枝・矢奥泰章	イチゴ栽培ハウス内の異臭がイチゴの食味に及ぼす影響	47:29-33(2016)
今村剛士・國本佳範	奈良県内のイチゴに寄生するナミハダニ黄緑型の薬剤感受性	47:34-36(2016)

[研究ノート]

國本佳範・竹中 勲・今村剛士	奈良県での促成栽培イチゴのナミハダニ黄緑型に対するカブリダニ製剤の防除効果	47:37-42(2016)
----------------	---------------------------------------	----------------

【農業研究開発センターニュース第148号 2015. 6】

研究成果	新しいカキ果実加工品の開発
	サクラ類の開花調節技術
	大和マナ'夏なら菜'の流通時における黄化の原因と対策
	イチゴの間欠冷蔵処理における気化潜熱ポットの利用
	温湯処理によるキク白さび病の防除
	奈良県内の促成栽培イチゴほ場におけるナミハダニの薬剤感受性

【農業研究開発センターニュース第149号 2015. 12】

研究成果	茶栽培用資材被覆・除去装置の開発
	防虫ネットを活用したヤマトトウキ葉生産方法の検討
	水稻'ヒノヒカリ'の高品質良食味米生産
	カキ葉の機能性成分の高含有品種の探索
	カキ樹幹害虫の新たな防除対策
トピックス	イベントを開催しました・お知らせ

4. 知的財産権の保有状況

特許権等の名称	発明 考案者	出願 年月日	出願番号	登録 年月日 登録番号	共同開発 機関
柿タンニンの抽出方法、及びこの方法で抽出された柿タンニン	濱崎貞弘	H16. 3. 24		H22. 4. 23 特許第 4500078号	
カキ苗の周年生産方法及び苗	脇坂 勝 杉村輝彦	H18. 6. 22		H23. 11. 11 特許第 4858693号	
緑茶の品質予測方法	米谷 力	H19. 1. 31 国内優先権 (H20. 1. 31)		H25. 1. 18 特許第 5177384号	大阪大学 (財)奈良県中小 企業支援センター
切り花収穫機及び切り花収穫方法	仲 照史 角川由加 小山裕三	H21. 10. 13		H26. 11. 7 特許第 5640270号	(独)農業・食品産 業技術総合研究 機構 みのる産業(株)
燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した圧カスイング法による園芸用施設への二酸化炭素供給装置	西本登志 堀川大輔 後藤公美 佐野太郎 仲 照史	H22. 7. 9		H26. 7. 18 特許第 5578469号	(独)産業技術総 合研究所 大阪ガス(株) 日本軽金属(株)
燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した園芸用施設への二酸化炭素施用装置	西本登志 仲 照史 廣岡健司 佐野太郎	H23. 9. 12	特願 2011-199050 国内優先権 2012-200204		(独)産業技術総 合研究所 (独)農業・食品 産業技術総合研 究機構 大阪ガス(株) 日本軽金属(株)
植物生育環境調節装置	西本登志 堀川大輔 穴戸拓樹 佐野太郎	H25. 5. 2		H27. 4. 10 特許第 5725627号	(地独)大阪府立 環境農林水産総 合研究所 鳥取大学 (独)農業・食品 産業技術総合研 究機構 大日本プラス チック株式会社 株式会社ヴェイ ル
ピートモス組成物及びその使用方法	西本登志 安川人央 東井君枝 矢奥泰章 皆巳大輔	H26. 7. 10	特願 2014-142691		倉敷紡績(株)

品種名	育成者権者	登録年月日	登録番号
アスカルビー	奈良県	H12. 2. 4	7651号
古都華	奈良県	H23. 10. 5	21164号
千都の輝	奈良県	H24. 2. 2	21348号
千都の風	奈良県	H28. 3. 7	24876号
千都の舞	奈良県	H28. 3. 1	24776号
春日の紅	奈良県	H25. 3. 6	22340号
とうがらし	奈良県	出願 H27. 6. 18	出願番号30271号
春日の鈴音	奈良県	出願 H28. 3. 3	出願番号30907号
千都の恋	奈良県	出願 H28. 3. 3	出願番号30908号
千都の粋	奈良県	出願 H28. 3. 3	出願番号30909号

5. 平成27年度 研究成果情報 (2016. 3) (3課題)

No.	推進部会	成果名	チーム名	研究担当者	分類
1	病害虫	露地ナスの土着天敵保護体系導入によって増加する害虫への対策	病害虫防除	竹中勲、井村岳男、今村剛士、國本佳範	研究成果情報
2	野菜	異臭がする栽培施設で収穫されるイチゴは、食した時の香りが悪く、美味しくない	野菜栽培	西本登志、皆巳大輔、安川人央、東井君枝、矢奥泰章、清水浩美（奈良産総セ）、高村仁知（奈良女大生活環境）	研究成果情報
3	花き	6-ベンジルアミノプリン(BA)を用いたダリア切り花の日持ち性向上	花き栽培	辻本直樹、仲照史、虎太有里、湯本弘子（農研機構花き研）、東明音（クリザール・ジャパン(株)）	普及成果情報

6. 学会・研究会誌への投稿等

(原著論文)

著者名	タイトル	種類	学会・研究会誌名	巻号：頁	発表年月
西本登志・前川寛之・米田祥二・矢奥泰章	ナス果実の調理前後の物性の品種・系統間差	原著	園芸学研究	15:81-86	2016.1
仲照史・角川由加・前田茂一	夏秋小ギクの開花斉一性向上における親株系統選抜の重要性	原著	園芸学研究	15:39-46	2016.1
平山喜彦・浅野俊介	A Practical Method for Forecasting Strawberry Anthracnose Caused by <i>Glomerella cingulata</i> Using an Ethanol-spray Treatment in Nara Prefecture, Japan	原著	関西病害虫研究会	57:25-29	2015.5
浅野峻介・平山喜彦・仲照史	Simultaneous detection of Tomato spotted wilt virus, Dahlia mosaic virus and Chrysanthemum stunt viroid by multiplex RT-PCR in dahlias and their distribution in Japanese dahlias	原著	Letters in Applied Microbiology	61(2):113-120	2015.8
神川 諭	施設圃場への省力的なエンバクわらの持ち込み方法	資料	日本農作業学会・農作業研究	50(2):37-43	2015.6
神川 諭・安川人央・竹中 勲	ホウレンソウの移植栽培がホウレンソウケナガコナダニの被害に及ぼす影響	短報	関西病害虫研究会・会報	57:105-107	2015.9

7. 学会・研究会、シンポジウム等での発表・講演

学会・研究会(口頭発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月
西本登志	イチゴの栽培技術の歩みと最近の研究 成果	農工連携による波長変換資 材の開発に関する公開シン ポジウム	—	2015. 10. 29
西本登志	奈良県農業研究開発センターにおける イチゴの栽培技術に関する最近の取り 組み	平成27年度近畿地域マッ チングフォーラム	—	2015. 11. 5
西本登志	奈良県のイチゴ産地のこれまでの歩み と動向	第21回日本イチゴフォー ラム	—	2016. 3. 25
東井君枝	間欠冷蔵処理におけるスリットポット の利用がイチゴ‘アスカルビー’の開 花に及ぼす影響	園芸学会平成27年度秋季大 会	園芸学研究 14別2：174	2015. 9. 26
矢奥泰章	ポットの大きさと間欠冷蔵処理前の施 肥量がイチゴ‘アスカルビー’の開花 に及ぼす影響	平成27年度園芸学会近畿支 部	園芸学研究 15別1：518	2015. 8. 25
矢奥泰章	間欠冷蔵処理と定植時期がイチゴ‘ゆ めのか’の開花に及ぼす影響	園芸学会平成28年度春季大 会	園芸学研究 15別1：127	2016. 3. 26
仲照史	ダリア研究・今後の展開	日本ダリア会研修会		2016. 1. 29
仲照史・辻本直 樹・虎太有里	生育ステージ別の温度処理が8月咲き 小ギク‘春日の紅’の開花に及ぼす影 響	園芸学会近畿支部 平成27 年度大会	園芸学研究 15(1)：512	2015. 8. 25
仲照史・辻本直 樹・虎太有里	ダリア切り花における日持ちと植物体 糖濃度の季節変動	園芸学会平成27年度秋季大 会	園芸学研究 14(2)：266	2015. 9. 26
辻本直樹・仲照 史・虎太有里	ダリアのin vitroにおける塊根形成条 件の探索	園芸学会平成27年度秋季大 会	園芸学研究 14(2)：240	2015. 9. 26
辻本直樹	培養苗の増殖条件とin vitro球根の形 成	日本ダリア会研修会		2016. 1. 29
仲照史	CO2貯留装置の開発とCO2局所施用の効 果	近畿中国四国農業試験研究 推進会議花き部会		2016. 1. 25
虎太有里	低温処理を利用したプリムラ類の安定 生産	平成27年度園芸学会秋季大 会苗生産研究小集会		2015. 9. 25
虎太有里	切り枝花木の安定生産技術	近中四農業試験研究推進 会議 花き推進部会問題別研 究会		2015. 10. 15
国本佳範	エビデンスを伝える 薬液の付着向上 指導を例として	日本植物病理学会EBC研究 会ワークショップ		2015. 9. 15
國本佳範	イチゴのナミハダニ黄緑型の感受性検 定法	第24回日本ダニ学会大会		2015. 9. 13
國本佳範	施設栽培スイカでの飛ばないナミテン トウの防除効果について	第76回日本昆虫学会・日本 応用動物昆虫学会第60回大 会合同大会		2016. 3. 29
平山喜彦	PCRによるイチゴ萎黄病菌検出技術の 生産現場での活用	フザリウム研究会	第10回フザ リウム研究 会資料集	2015. 8. 27
平山喜彦	キク白さび病感染株に対する温湯消毒 の効果	平成27年度関西病虫害研究 会	関西病虫害 研究会報 57:144	2015. 5. 20
浅野峻介・平山 喜彦・倉田 淳・印田清秀	ダリアにおけるトマト黄化えそウイル スの主要な伝染方法の特定	平成27年度関西病虫害研究 会	関西病虫害 研究会報 57:143	2015. 5. 20
浅野峻介・平山 喜彦・仲照 史・印田清秀	日本のダリア産地におけるトマト黄化 えそウイルス、ダリアモザイクウイル ス、キク矮化ウイロイドの感染状況	平成27年度日本植物病理学 会関西部会	プログラ ム・講演要 旨予稿集： 35	2015. 9. 29
浅野峻介・平山 喜彦	ダリアにおけるTSWVの植物体内分布	平成27年度近畿中国四国農 業試験研究推進会議病害虫 問題別研究会「病害分科 会」	資料：3	2016. 1. 25
浅野峻介	ウイルス・ウイロイドの検定法と防除 対策	日本ダリア会 日本ダリア 栽培勉強会	—	2016. 1. 29
浅野峻介	ダリアのウイルス・ウイロイドの検定 技術および防除技術の開発	日本種苗協会奈良県支部 第9回技術研究部会	—	2016. 2. 26

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月
浅野峻介	奈良県内の小ギク品種におけるキク矮化ウイルス（CSVd）抵抗性スクリーニング	平成28年度日本植物病理学会大会	プログラム・演要旨予稿集：166	2016. 3. 23
玉田勝也	牛ふん堆肥連用が土壌物理生に及ぼす影響	近畿土壌肥料研究協議会第34回研究会		2015. 7. 31
浅尾浩史・米田健一・東井慈子	異なる播種時期がミシマサイコの収量に及ぼす影響	園芸学会近畿支部和歌山大会	園芸学研究15別1.	2015. 8. 25
神川諭	オオタバコガの捕食性天敵の検索を目的とした特異的プライマーの作成	関西病害虫研究会 第97回大会	関西病害虫研究会報57:147	2015. 5. 19
神川諭	アーチパイプの鉛直荷重に対する応力とダイバーの止め部材強度の解析	農業施設学会	2015年大会プログラム49	2015. 9. 15
神川諭	トマトに食入したタバコガ類幼虫のDNAマーカーを用いた同定と発生予察方法の検討	日本応用動物昆虫学会	日本応用動物昆虫学会要旨集	2016. 3. 29
濱崎貞弘	高齢者の営農を支援する「らくらく農法」の開発	H27近中四農研推進会議食品流通問題別研究会		2015. 12. 10
神川諭・竹中勲	奈良県の夏秋ナス栽培におけるオオタバコガの捕食者	天敵利用研究会 第25回大会	第25回天敵利用研究会プログラム30	2015. 12. 4
北條雅也	カキの葉のアスコルビン酸とポリフェノール含量の品種間差異	園芸学会平成27年度春季大会（千葉大学）		2016. 3. 28-29

学会・研究会（ポスター発表）

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月
米田健一・東井慈子・浅尾浩史	ヤマトトウキにおける冬期保温ベッド育苗による短期育苗法の検討	園芸学会平成27年度秋季大会	園芸学研究14別2：502	2015. 9. 26～27
米田健一・東井慈子・浅尾浩史	ヤマトトウキ栽培における防虫ネットを利用した害虫防除	日本生薬学会第62回年会	第62回年会講演要旨集：214	2015. 9. 11～12
米田健一・浅尾浩史	ヤマトトウキにおける葉部収穫方法のちがいによる葉部収量と根部収量への影響	園芸学会平成28年度春季大会	園芸学研究15別1：397	2016/3/26～27
浅野峻介・平山喜彦・仲照史	Simultaneous detection of two viruses and one viroid infecting dahlias by multiplex RT-PCR and their distribution in Japanese dahlias	2015 APS Annual Meeting	PROGRAM BOOK:66	2015. 8. 3
西本登志	イチゴのポット育苗用に開発された吸水ポリマーシート	平成27年度近畿地域マッチングフォーラム	—	2015. 11. 5
東井君枝	間欠冷蔵処理におけるスリットポットの利用がイチゴ‘アスカルビー’の開花に及ぼす影響	平成27年度近畿地域マッチングフォーラム	—	2015. 11. 5
西本登志	イチゴのポット育苗用に開発された吸水ポリマーシート	園芸学会平成27年度秋季大会	園芸学研究14別2：419	2015. 9. 26
西本登志	奈良県在来の特産トウガラシの果実収穫に要する時間	園芸学会平成28年度春季大会	園芸学研究15別1：353	2016. 3. 26
仲照史・浅野峻介・虎太有里	二輪ギク品種・系統におけるキク矮化ウイルス（CSVd）抵抗性の遺伝様式	園芸学会平成28年度春季大会	園芸学研究15(1)：444	2016. 3. 27
辻本直樹・仲照史・虎太有里	BA製剤の処理方法がダリア切り花の日持ち日数に及ぼす影響	園芸学会近畿支部平成27年度大会	園芸学研究15(1)：523	2015. 8. 25
虎太有里・仲照史・辻本直樹	プリムラ・ポリアンサの開花に及ぼす秋季冷蔵処理の影響	園芸学会平成27年度秋季大会	園芸学研究14(2)：538	2015. 9. 27
虎太有里・仲照史・辻本直樹	10～11月咲き小ギクの電照処理による11月継続出荷技術の開発	園芸学会平成28年度春季大会	園芸学研究15(1)：402	2016. 3. 27
濱崎貞弘	高齢営農者を支援する「らくらく農法」の開発	平成27年度領域シンポジウムコミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン		2016. 3. 4
濱崎貞弘	Innovations in Age-friendly Farming	第10回アジア太平洋アクティブ・エイジング会議		2016. 3. 5～6

8. 著書・雑誌・新聞・資料等への掲載、イベント展示、報道発表、テレビ、ラジオ

執筆者名	タイトル	掲載誌名	発行元・出版社	巻号：頁	発表年月
西本登志	生産者事例 奈良県・谷野隆昭さん ハウス内環境を整えて、快適に沢山収穫	農業技術大系 野菜編	一般社団法人 農山漁村文化協会	第3巻イチゴ(追録40号)：谷野1-10	2015.12
矢奥泰章	生産者事例 天理市・仲西芳美さん 間欠冷蔵処理導入で早期出荷、収量も28%増	農業技術大系 野菜編	一般社団法人 農山漁村文化協会	第3巻イチゴ(追録40号)：仲西1-8	2015.12
仲照史	無側枝性を有する10月咲き二輪ギク新品種「千都の風」と「千都の舞」	技術の窓	日本政策金融公庫		2016.1
辻本直樹	BA製剤散布処理によるダリア切り花の日持ち性向上	近畿の花情報	近畿花き振興協議会	第54号：	2015.7
虎太有里	ヒートポンプを用いた夜冷処理によるシクラメンの生育と開花の促進	「施設と園芸」ミニ情報	日本農民新聞社	169号	2015.4
杉村輝彦	7～9月の重点管理作業 病害虫防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第289号：41-43	2015.7
杉村輝彦	10～12月の重点管理作業 病害虫防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第290号：41-42	2015.10
杉村輝彦	平成27年度新農薬実用化試験成績(落葉果樹)	H27年度新農薬実用化試験成績(落葉果樹)	一般社団法人 日本植物防疫協会	第50集	2016.1
杉村輝彦	1～3月の重点管理作業「病害虫防除」について	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第291号：45-47	2016.1
西野精二	カキ栽培の軽労・省力化技術の開発	JATAFFジャーナル	公益社団法人 農林水産・食品産業技術振興協会	第3巻10号	2015.11
濱崎貞弘	カキの紅葉を色よく保存するコツ	現代農業	(一社)農山漁村文化協会	11月号	2015.11.1
濱崎貞弘	新たに開発された柿渋抽出技術	地域素材活用生活工芸大百科	一般財団法人日本穀物検定協会		2015.12.20
濱崎貞弘	くだもの百物語	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	288号	2015.4.1
濱崎貞弘	くだもの百物語	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	289号	2015.7.1
濱崎貞弘	くだもの百物語	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	290号	2015.10.1
濱崎貞弘	くだもの百物語	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	291号	2016.1.1
杉山高世	奈良県産米のブランド確立を目指して	「特Aへの道&米の消費拡大方策」誌	一般財団法人日本穀物検定協会		2015.10
神川諭	奈良県におけるパイプハウスの強風被害と雪害の実態	「施設と園芸」ミニ情報	(一社)日本施設園芸協会	171号	2015
國本佳範・今村剛士	ハダニ類の薬剤感受性検定法の簡略化に向けた取り組み	植物防疫所「病害虫情報」	横浜植物防疫所	107号：3	2015.11
平山喜彦	PCRによるイチゴ萎黄病菌検出技術の生産現場での活用	植物防疫	日本植物防疫協会	70：50-52	2016.1
平山喜彦	炭疽病の総合防除、萎黄病の総合防除	イチゴ大事典	農山漁村文化協会	245-260	2016.2
竹中勲	土着天敵を利用した露地ナス減農薬栽培技術	新版 天敵大事典	農山漁村文化協会		2016.1

執筆者名	タイトル	掲載誌名	発行元・出版社	巻号：頁	発表年月
浅野峻介	2015年度アメリカ植物病理学会大会報告	植物病理学会学会ニュース	日本植物病理学会	11	2015.11
浅野峻介・平山喜彦・仲照史	ダリアに感染するウイルス・ウイロイドの検出技術の開発及び国内における発生状況	植物防疫	日本植物防疫協会	69:12-16	2015.12
西田一平	土壌断面から土の性質を把握	農業日誌	農林統計協会	平成28年度版	
林良考	果樹もコンパクト時代	農業日誌	農林統計協会	平成28年度版	

(イベント展示)

発表者	タイトル・テーマ・見出しなど	イベント名	発表年月日
野菜栽培ユニット 花き栽培ユニット	CO2吸脱剤利用によるCO2貯留・供給システムの開発 CO2貯留・供給装置の実用性評価	アグリビジネス創出 フェア2015 熱プロ ブース	2015.11.18～ 20
野菜栽培ユニット	花粉媒介昆虫の違いがイチゴの収穫量と奇形果率に及ぼす影響、並びに開花までの花蕾への覆いが'熊研い548'の果実の形状に及ぼす影響	アグリビジネス創出 フェア2015 中四国ア グリテックブース	2015.11.18～ 20
茶栽培ユニット	企画展「知っておいしい大和の茶」を開催	図書館企画展	2015.12.1～6
野菜栽培ユニット	イチゴの品種育成について	よもやろ 啓林堂奈 良店2階	2016.3.12 講 演

(報道発表)

担当	タイトル	発表年月日
果樹・薬草研究センター	「果樹・薬草研究センター開放デー」開催	2015.11.4
大和茶研究センター	企画展「知っておいしい大和の茶」を開催	2015.11.10
研究企画推進課	農業研究開発センター「成果発表会」を開催	2015.12.25

(新聞)

発表者	タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	掲載日
野菜栽培ユニット	次世代の主役私のことか 奈良の秘蔵つ子「古都華」	朝日新聞	2015.4.4
野菜栽培ユニット	うり二つ優等生の種探し 奈良スイカの研究開発拠点	朝日新聞	2015.6.6
茶栽培ユニット	奈良県茶業発展を祈念	日本農業新聞	2015.8.23
食品加工ユニット	御所市を始めとする柿の歴史や渋みの話、柿の葉の利用紹介	読売新聞	2015.10.1
病害虫防除ユニット	施設園芸作物の病害虫防除	日本農業新聞	2016.1.8
穀物栽培ユニット	このコシ寒風仕込み 奈良桜井の三輪そうめん	朝日新聞	2016.1.9
野菜栽培ユニット	県産イチゴ「古都華」紹介	毎日新聞	2016.1.27
野菜栽培ユニット	県ブランドいちご「古都華」活用小学校でスタート	産経新聞	2016.2.4

(奈良新聞「農を楽しむ」)

担当者	タイトル	所属	掲載日
島 康博	春野菜作付のポイント	育種科	2015.4.6
西田 一平	奈良で生まれた農産物の品種	研究企画推進課	2015.5.3
根本 明季	シカクマメを育てよう	育種科	2015.6.7
濱崎 貞弘	「カキの葉」の魅力	加工科	2015.7.5
浅野 峻介	植物のウイルス病	基盤技術科	2015.8.2
大谷 正孝	薬草「ヤマトトウキ」	果樹・薬草研究セン ター	2015.9.6
姫野 孝彰	お湯の温度とお茶の味	大和茶研究センター	2015.10.4
木矢 博之	新鮮野菜プロッコリー	大和野菜研究センター	2015.11.1
上田 直也	柿のせん定のあれこれ	育種科	2015.12.6
阪田 星子	小麦粉のひみつ	加工科	2016.1.3
竹中 勲	ネコブセンチュウ対策	基盤技術科	2016.2.7
辻本 直樹	切り花バラの樹形管理	育種科	2016.3.6

(テレビ・ラジオ)

発表者	番組・タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	発表年月日
野菜栽培ユニット	ゆうがたLIVEワンダー：トウガラシ新系統の育成の経緯と機能性表示の可能性について	関西テレビ	2015.6.8
野菜栽培ユニット	ごはんジャパン：大和丸なす	テレビ朝日	2015.6.20
食品加工ユニット	所さんの目がテン！：柿渋の効能(抗菌性、樹脂化など)について	日本テレビ	2015.10.18
野菜栽培ユニット	奈良ナビ：イチゴ「古都華」	NHK奈良	2015.12.2
野菜栽培ユニット	ぐるっと関西お昼前：イチゴ「古都華」	NHK奈良	2015.12.4

9. 平成27年度 奈良県農業研究開発センター研究評価委員会 評価結果

平成28年2月23日開催 やまと会議室 5階中会議室

評価対象課題等について

- 1) 評価対象課題
中期運営方針に基づき平成27年度に実施した、4つの大課題に含まれる27の小課題を対象とする。
- 2) 評価方法
必要性、達成状況、事業効果について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

評価委員名簿 評価委員の委員長は、委員の互選によって選出（五十音順）

評価委員氏名	役職・肩書き
神澤佳子	消費生活アドバイザー
重岡 成	近畿大学農学部長
中尾静子	奈良県指導農業士会会長
福谷健夫	奈良県農林部長
宮尾憲明	奈良県指導農業士会前会長

各研究課題の評価（5名の評価委員の平均値で記載）

大課題	中課題	番号	小課題	評価区分			合計
				必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
			評価委員の意見				
薬用作物の安定供給	優良品種の育成	1	ゲノム育種等による優良品種の育成	4.5	3.7	3.5	11.7
		・マーカー遺伝子の候補者を選定できたことは評価に値する。マーカー遺伝子(11個)候補の中に、選抜に役立つ遺伝子が存在すること期待する。 ・他にはない研究であり今後の成果が期待される。					
	省力・安定生産技術の開発	2	省力化技術の開発	4.7	3.8	3.6	12.1
		・省力化のための著しい効果は出ている。現時点で、省力化はマックスか？さらなる、改善の余地は残されているのか？ ・いずれも省力化の効果が大きく実践的な技術と評価できる。					
生薬以外への利用に向けた生産技術の開発	3	安全・安心で安定多収技術の開発	4.3	4.0	3.3	11.6	
		・カメムシの吸汁による発芽率の低下が大きな原因となることを明らかにしたことは良い成果と考えるが、それを防御するために対応は具体的にどのように考えるのか？深層局所施肥は、具体的にどのようにして行い、労力的にも変わらないのか？					
優良品種の育成	商品性の高い新たなイチゴ品種の育成	4	トウキ葉の安定生産技術の開発	4.5	3.9	3.3	11.7
		・半刈りによる効果は、葉での光合成による糖の生成、そして葉から根への転流などのバランスが取れたことによる、根の収穫量のアップということか？ ・トウキ葉が食用として利用可能なら、消費者の健康志向に応えるものと期待できる。					
優良品種の育成	商品性の高い新たなイチゴ品種の育成	5	取引に有利なケーキ店用、高級果実店用品種の育成	4.7	4.1	4.1	12.9
		・イチゴ果実の食味・形状、酸味などによるこれまでの経験で交配育種が進行していることは良いが、最終的に優良品種が選抜された場合、従来のものとの数値的な比較が必要となるのではないか。 ・マーケットを意識した開発として評価できる。実現に近づいており、今後の成果に期待している。					

大課題	中課題	番号	小課題	評価区分			合計
				必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
			評価委員の意見				
優良品種の育成	商品性の高い新たなイチゴ品種の育成	6	甘さを左右する遺伝子の解析による選抜技術の開発	4.3	2.8	3.2	10.3
		<ul style="list-style-type: none"> ・葉のショ糖レベルと果実のレベルの違いは、転流に依存するのであろうが、ショ糖合成酵素遺伝子の発現との関連ももう少し詳しく調べてみる必要があると思われる。 ・今後の取組みに期待している。 					
	産地間競争に打ち勝つキク品種の育成	7	気象変動に左右されない安定した開花特性を持つ小ギク品種の育成	4.9	4.1	4.0	13.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・品種登録出願は評価に値する。品種登録される8月咲きの優良品種のこれからの維持管理はどう样に行うのか。 					
		8	芽かきの不要な無側枝性二輪ギク品種の育成	4.5	4.3	4.0	12.8
	<ul style="list-style-type: none"> ・品種登録出願は評価に値する。 						
	9	遺伝子解析技術を活用した病害抵抗性品種の育成	4.7	3.5	3.5	11.7	
		<ul style="list-style-type: none"> ・わい化の原因となるウイロイド抵抗性実生の確実な選抜に期待する。 ・5年間の研究での成果が期待できる経過である。 					
	甘柿のない時期に出荷できる甘柿品種の育成	10	交配による新品種候補の作出と、遺伝子解析による10月下旬～11月上旬に出荷できる甘柿の早期選抜	4.7	3.4	3.9	12.0
			<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子診断で甘柿と判定された49種類の中に、魅力ある中生品種があることを期待する。 				
遺伝資源の保存と活用	11	奈良オンリーワン酒米品種の育成	4.2	3.3	3.1	10.6	
		<ul style="list-style-type: none"> ・露葉風と高い品質のコメとの交配での、新規の酒米の育成に期待するが、個体選抜ののち、従来コメとの明確な数値的比較が必要になるとと思われる。 					
加工商品の開発と加工技術の研究	イチジクなど奈良オンリーワン加工品の開発	12	オリジナリティ溢れるイチジク加工新商品の開発	4.3	4.0	3.6	11.9
			<ul style="list-style-type: none"> ・30%加糖で美味しいグラッセが開発されたことは評価する。 ・イチジクの加工品として新規性がある。和菓子風で独特の風味がある。 				
	奈良特産品の成分分析と調理・加工法の開発	13	辛くない燃焼成分（カプシエイト）を持つひもとうがらしの食材活用	4.0	4.0	4.0	12.0
			<ul style="list-style-type: none"> ・雨除け栽培とは具体的にどのように行われ、なぜ香り成分が多く残るのか？ ・飲食店との共同での開発がうまくいっていると思う。食材の普及にも効果的である。 				
14	大和野菜粉末と県産小麦を用いた彩りそうめんの開発	4.0	3.1	3.1	10.1		
	<ul style="list-style-type: none"> ・窒素分の追肥によるタンパク質レベルの向上は理解できるが、具体的にはどのように施肥するのか？ ・奈良の新しい特産品となるよう今後に期待している。 						

大課題	中課題	番号	小課題	評価区分			合計
				必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
			評価委員の意見				
加工商品の開発と加工技術の研究	奈良特産品の成分分析と調理・加工法の開発	15	大和野菜の機能性評価と機能性を活かした新商品の開発	4.2	3.1	3.1	10.3
		・ねぶかに含まれるACE阻害の新規の活性物質を同定されたことは評価に値する。ねぶかにどれくらい含まれるのか？さらに、含量を増加させるのか？ 実質的な活用法はどうするのか？					
	機能性成分に着目した新商品の開発	16	糖の吸収を抑える柿タンニンを活かした「特定保健用食品」等新商品の開発	3.8	3.1	3.1	10.0
		・タンニンの機能安定化のための低分子化は理解できるが、従来のタンニンがもつ血糖値抑制効果を最大限に発揮させるためには、どの程度（数値的に）の低分子化をすべきかなども考慮すべきである。					
		17	食品添加用粉末茶とそれを用いた機能性食品の開発	4.7	3.4	3.3	11.4
		・お茶のカフェイン除去のために柿タンニンが有効であることは理解できたが、実際にはお茶を飲むときはどのように処理するのか？ ・粉末茶の用途は今後一層広がる可能性がある。また低カフェイン飲料のニーズもあるので実用化に期待している。					
革新的な生産技術の開発	脱化学農薬！ 天敵利用技術の開発	18	飛ばないテントウムシ等を用いた害虫防除技術の開発	4.0	3.0	3.0	10.0
		・3回のアブラムシ放育で効果があることの成果は評価に値するが、最終的な収穫にも大きく貢献するのか？ ・省力化の効果が上がっている。今後に期待。					
		19	土壌への定着性を高めた微生物による土壌病害防除技術の開発	4.2	3.5	3.3	11.0
	・大豆を使った微生物処理は、ユニークな発想で面白い。ただ、現実として労力、コスト的にも普及するか？ ・着想に新規性がある。						
	耕作放棄地の再生と利活用技術の開発	20	有機物投入と太陽熱処理による耕作放棄地の再生技術の開発	4.5	3.6	3.3	11.4
		・種をまいて、刈取り、すき込むだけで土壌改良となることは、今後の普及に期待する。 ・必要な研究であり具体的な成果も上がっている。					
奈良特産品の高品質・安定生産技術の開発		21	ロボット技術やセンサー技術の活用による農作業補助機械の開発	4.3	3.3	3.3	10.9
		・高専との共同研究でのロボット技術、センサー技術の活用での労働の快適化・効率化に大いに期待する。普及には、コスト面が問題となるのか？ ・作業目線の技術である。他の農作業での応用の可能性もあり今後の開発が期待される。					

大課題	中課題	番号	小課題	評価区分			合計
				必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
			評価委員の意見				
革新的な 生産技術 の開発	奈良特産品の高品質・安定生産技術の開発	22	DNAマーカーの活用によるウイルス等の診断技術・防除対策の確立	4.5	3.3	3.1	10.9
		・遺伝子診断による二つの病原菌の検出技術の確立は評価する。今後は、この方法の普及が課題となると思われる。					
		23	奈良の「特A米」品質向上技術の開発	4.2	3.1	3.3	10.6
		・示されている表の結果から、7.5%のタンパク質レベルを目指すために現状としてどれがベストの条件か？0.1 mmの違いによるふるいで品質のばらつきが小さくなる成果は評価に値する。					
		24	チャの早期成圃化技術の開発	4.7	3.7	3.7	12.1
	・従来の7年栽培を5年に短縮するには、数年の初期の段階でのセル苗生産、栽培密度などが重要であることの成果は評価に値する。						
	25	日持ちの保証ができる「奈良の花」品質向上技術の開発	4.7	3.5	3.1	11.3	
	・NaClの処理は具体的にどのように行うのか？ショ糖による効果は、これまで切り花の品質保持で報告されているものと同じであるが、これも具体的にどのように処理するのか？ ・消費者ニーズに応える技術である。						
	奈良にふさわしいパイプハウス雪害対策技術の開発	26	耐雪対策技術の開発	4.5	3.1	3.6	11.2
・補強資材のさらなる検討に期待する。							
		27	雪下ろし技術の開発	4.3	3.0	3.3	10.5
・実際には、どの程度のロープ強度で、どの程度の積雪量で行われているのか？ ・作業者の体力への配慮と安全性が確保できるよう検討を進めてください。							

10. 共同研究・受託研究（外部資金研究）の実施状況

研究課題名	共同研究機関	委託事業（資金）名	委託機関（契約先）	担当係・チーム・課	研究期間
育種素材の調査事業	—	育成系統評価に係る栽培、調査業務	農研機構野茶研	野菜栽培ユニット	H23～
土着天敵を有効活用した害虫防除システムの開発	農研機構中央農研、農研機構野茶研、宮崎大学、静岡県、千葉県	土着天敵を有効活用した害虫防除システムの開発（農水省委託プロ）	農林水産省→農研機構中央農研	病害虫防除ユニット	H24～27
無病球根の効率的増殖を核とした有望球根切り花の生産流通技術開発	宮崎県、農研機構花き研究所、南九州大学、秋田県、山形県	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	農林水産省→宮崎県	花き栽培ユニット・病害虫防除ユニット	H25～27
日持ち性等に優れた性質を持つ新規有望品目の育成	農研機構花き研、秋田県	国産花きの国際競争力強化のための技術開発（農水省委託プロ）	農林水産省→農研機構花き研	花き栽培ユニット	H27～31
キクウイルス性矮化病の罹病性検定技術の開発と抵抗性品種の選抜	農研機構花き研、群馬県、宮城県	国産花きの国際競争力強化のための技術開発（農水省委託プロ）	農林水産省→農研機構花き研	病害虫防除ユニット・花き栽培ユニット	H27～31
ダイズ子実への持続的な窒素供給を目指した根粒着生制御理論の提案	近畿大学、龍谷大学、滋賀県立大学、農研機構北海道農研	科学研究費助成事業	文部科学省→近畿大学	穀物栽培ユニット	H25～27
カキ産地リフレッシュ技術の確立	福島県、和歌山県、神奈川県、(株)福島天香園、大内わら加工品(株)	持続的な果樹経営を可能とする生産技術の実証研究（食料生産地域再生のための先端技術展開事業）	農林水産省→(一社)食品需給研究センター	果樹栽培ユニット	H25～29
水稲におけるヒ素のリスクを低減する栽培管理技術の開発	農環研、秋田県、千葉県、富山県、滋賀県、山口県、熊本県、島根大学、農研機構東北農研、(株)住化分析センター	水稲におけるヒ素のリスクを低減する栽培管理技術の開発（農水省委託プロ）	農林水産省→農環研	環境保全ユニット	H25～27
農地土壌温室効果ガス排出量算定基礎調査事業	—	生産環境総合対策事業	農林水産省（近畿農政局）	環境保全ユニット	H25～32
農薬残留対策総合調査	—	農薬残留対策総合調査事業	(一財)材料科学技術振興財団	環境保全ユニット	H26～
低コスト太陽光追尾システムの農地での有効性実証	ダイキン工業(株)	NEDO・太陽光発電多用途化実証プロジェクト/太陽光発電多用途化実証事業	NEDO→ダイキン工業(株)	野菜栽培ユニット	H25～28
間欠冷蔵処理によるイチゴの花芽分化促進	岡山大学、栃木県、新潟県、和歌山県、香川県、長崎県、農研機構近中四農研	攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業	農林水産省→岡山大学	野菜栽培ユニット	H26～27
施設園芸における効率的かつ低コストなエネルギー供給装置及び利用技術の開発	岐阜大学、農研機構中央農研、野茶研、産総研究所、フタバ産業(株)、東京大学、三井造船(株)、静岡大学	施設園芸における効率的かつ低コストなエネルギー供給装置及び利用技術の開発（農水省委託プロ）	農林水産省→岐阜大学	野菜栽培ユニット・花き栽培ユニット	H26～28
イチゴ高設栽培施設における蓄熱材の利用	ヤノ技研	—	—	野菜栽培ユニット	H27～28
波長変換フィルムの園芸利用法の確立	大阪府大、ヤノ技研、他	戦略的基盤技術高度化支援事業	中小企業庁→大阪府大	野菜栽培ユニット	H27～29

研究課題名	共同研究機関	委託事業 (資金) 名	委託機関 (契約先)	担当係・ チーム・課	研究 期間
ナミハダニの薬剤抵抗性メカニズムの解明と管理技術の開発	生物研、京都大学、静岡県	ゲノム情報等を活用した薬剤抵抗性管理技術の開発（農水省委託プロ）	農林水産省 →生物研	病害虫防除ユニット、遺伝資源保存ユニット	H26～30
薬用作物栽培における雑草管理の軽労化技術の実証	農研機構中央農研(株)キューホー	多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発（農水省委託プロ）	農林水産省 →農研機構中央農研	薬草栽培ユニット、穀物栽培ユニット	H27～31
中山間の未利用有機性資源を活用した人にも環境にもやさしい土壌消毒技術の実用化	農研機構近中四農研、広島県、山口県、徳島県、山形大学、みのる産業(株)	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	農林水産省 →農研機構近中四農研	環境保全ユニット、遺伝子保存ユニット	H27～29
地域未利用資源である生薬抽出残渣の肥料効果および土壌改良効果の検討	-	新稲作研究会委託事業	新稲作研究会	遺伝子保存ユニット	H27～28
茶育成系統評価試験	農研機構野茶研、埼玉県、静岡県、三重県、滋賀県、京都府、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県	茶育成系統評価試験	農林水産省 →農研機構野茶研	茶栽培ユニット	H27～29
実需者ニーズに対応した茶品種の育成とその栽培・加工・利用技術の開発	農研機構野茶研、京都府、三重県、佐賀県、福岡県、鹿児島県ほか	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	農林水産省 →農研機構野茶研	茶栽培ユニット	H26～30